

第2学年 算数科学習指導案

1 単元名 かけ算（2）

- 2 単元目標 **【関】** 乗法のきまりを使うよさが分かり、新しい乗法九九づくりをしようとする。
- 【考】** 乗法のきまりに着目して、九九の構成を考えることができる。
- 【表】** 乗法のきまりを用いて、九九を構成するとともに、2の段から5の段までの九九を唱えることができる。
- 【知】** 乗法の意味及び、答えの求め方が分かる。

3 指導計画（13時間）

| 次 | 時 | 学 習 内 容 | 評 価 の 観 点 |
|--------------------------------|---|--|---|
| 2 九の 九だ ん の (2) | 1 | <ul style="list-style-type: none"> 1 そうに2人ずつ乗っているボートの何そう分かの人数を、乗法の式で求める。 「九九」の意味を知る。 | 【知】 2の段の九九の構成がわかる。 |
| | 2 | <ul style="list-style-type: none"> 2の段の九九の唱え方を知る。 2の段の九九の場面を絵で表す。 2の段の九九の式になる問題を作る。 | 【表】 2の段の九九を唱えることができる。 |
| 5 九の 九だ ん の (2) | 1 | <ul style="list-style-type: none"> 1 皿に5個ずつのっているお菓子の何皿分かの個数を乗法の式で求める。 | 【知】 5の段の九九の構成がわかる。 |
| | 2 | <ul style="list-style-type: none"> 5の段の九九の唱え方を知る。 5の段の九九の場面を絵で表す。 5の段の九九の式になる問題を作る。 | 【表】 5の段の九九を唱えることができる。 |
| 3 九の 九だ ん の (2) | 1 | <ul style="list-style-type: none"> 1 皿に3個ずつのっているゼリーの何皿分かの個数を乗法の式で求める。 ゼリーが1皿増えると、個数は3個増えることを知る。 | 【知】 3の段の九九の構成がわかる。 【考】 3の段の九九の答えは3つずつ大きくなっていることが理解できる。 |
| | 2 | <ul style="list-style-type: none"> 3の段の九九の唱え方を知る。 3の段の九九の場面を絵で表す。 3の段の九九の式になる問題を作る。 | 【表】 3の段の九九を唱えることができる。 |
| 4 九の 九だ ん の (2) | 1 | <ul style="list-style-type: none"> 1 台に4個ずつタイヤをつけた自動車の何台分かのタイヤの数を、乗法の式で求める。 自動車が1台増えると、タイヤの数は4個増えることを知る。 | 【知】 4の段の九九の構成がわかる。 【考】 4の段の九九の答えは4つずつ大きくなっていることが理解できる。 |
| | 2 | <ul style="list-style-type: none"> 4の段の九九の唱え方を知る。 4の段の九九の場面を絵で表す。 4の段の九九の式になる問題を作る。 | 【表】 4の段の九九を唱えることができる。 |
| カ ー ド あ そ び | 1 | <ul style="list-style-type: none"> 2、3、4、5の段の乗法の式と、答えのカードで、答え取りのゲームをする。 | 【関】 進んでゲームに参加し、九九の答えを速く正確に考えようとする。 |
| | 2 | <ul style="list-style-type: none"> 2、3、4、5の段の乗法の式と、答えのカードで、カード合わせのゲームをする。 | 【関】 進んでゲームに参加し、九九の答えを速く正確に考えようとする。 |

| | | | |
|-------------|---------|---|------------------------------------|
| (3) | | | する。 |
| | 3 | ・2・3・4・5の段の乗法の式と、答えのカードで、大きさ比べや「神経衰弱」のゲームをする。 | 【関】 進んでゲームに参加し、九九の答えを速く正確に考えようとする。 |
| 練習(1) | 1 | ・既習事項の理解を深める。 | 【表】 5の段までの九九の計算ができる。 |
| を習使ったて九九(1) | 1 本時 | ・既習の九九を使って切手の数を求め、考え方を説明する。 | 【考】 乗数を分解しながら、多様な解決方法を考えることができる。 |

4 指導上の立場

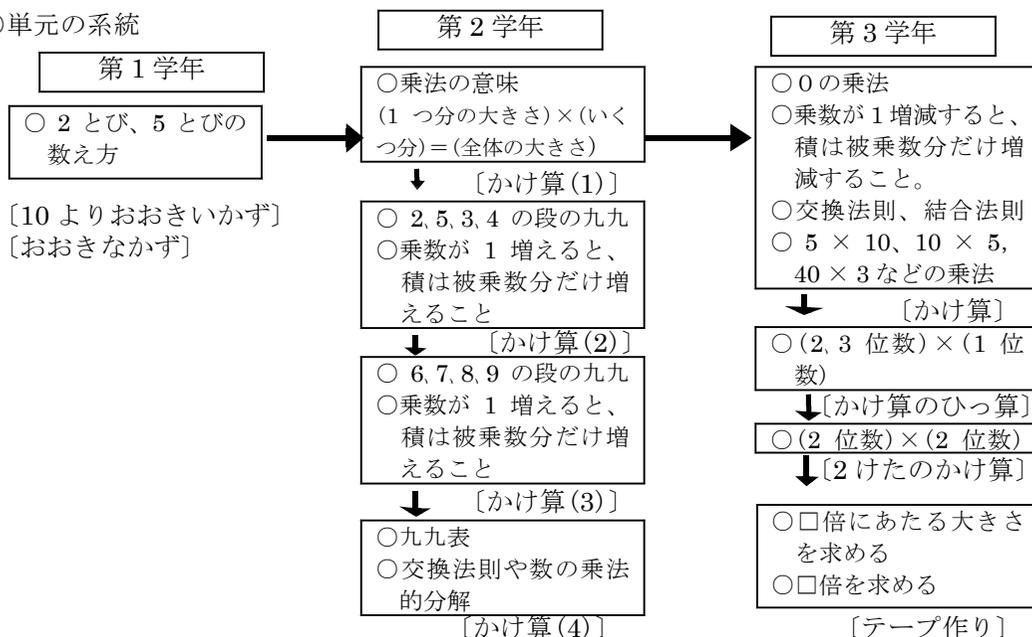
○単元（題材）について

本単元では、主に次の4つの部分で構成されている。

- ア. 身近な事例をもとに2の段から5の段の九九を構成すること。
- イ. 自作したカードを使って、各段の九九の習熟を図ること。
- ウ. 九九を構成する中で、被乗数、乗数、積の関係や交換法則などの乗法のきまりを見つけさせること。
- エ. 乗法の適用場面を広げたり確かめたりするとともに、進んで生活に生かすようにすること。

かけ算九九については、この学習に入る前から見たり聞いたりしているのので、子どもたちは興味、関心を示しているが、形式的に九九を唱えたり、書いたりしているだけで、かけ算の意味は理解していない。そこで、具体物を並べて九九を構成する段階から、さらに進めてかけ算の意味をふまえて九九の構成ができるようにしたい。乗数が1増えると、積は被乗数だけ増すことに気づいたり、「1つ分の大きさ」や「いくつ分」にあたるものをよりの確に判断したりする力を培いたい。

○単元の系統



○児童の実態

削除しています。

○本時について

本時の学習は、「かけ算（２）」で、 $2 \cdot 3 \cdot 4 \cdot 5$ の段を学習した後の発展的な学習である。ここでは、数の多様な見方を培いたい。まだ学習していない 7×6 の答えを求めるためには、分配法的に被乗数を分解していく見方が必要となる。 3×6 と 4×6 に分けて考えたり、 2×6 と 5×6 に分けて考えたりすることで、学習した九九を使って求めることができることに気づかせたい。

また、縦・横の見方を変えることで交換法的な見方もすることができる。このように数の多様な見方を培い、数感覚を育てていることで、次の「かけ算（３）」で学習する６の段以降の九九の構成への関心をもたせたい。

○研究主題との関わり

研究テーマ

「確かな学力をつける～学習習慣の定着と学習意欲向上のための指導のありかた～」

サブテーマ

互いを認め合いながら学習の喜びを実感できる授業づくり「チーム力を育てる」

「わかった」「できた」という喜びや満足感が次の課題への意欲や自信につながる。けれども見通しや自信がもてないことで課題に取り組む前から「どうせない」「やっても無理だ」と投げやりになり、授業にも集中できなくなってしまう児童もいる。そこで、課題提示の方法を工夫したり、体験的な活動を取り入れたりしながら「できそうだ」「やってみよう」と思えるめあてを設定し、取り組んできたことで、少しずつではあるが、意欲をもって課題に取り組めるようになってきた。本時の学習のように、初めて出会う課題や、一見難しそうに思える問題であっても、既習事項を使えば解決することができるという経験を積み重ねさせ、自信をもたせることで、次への意欲につなげたい。

本校のもう一つの課題として、一方的に自分の考えは言っても、自分と違う考え方を認めにくい雰囲気が高く、安心して意見が言いにくい実態がある。誰もが安心して自分の考えが主張できる集団を育てるために、ペア学習やグループでの活動を取り入れている。１人では自信がもてないことでも、誰かと相談することで自信をもつことができ、さらに、多様な考えも生まれる。それぞれの考えのよさについて話し合う中で、自分が気づけなかった考えを取り入れたり、自分の考えと比較してよりよい考えを受け入れたりさせることで、互いを認め合う集団に育てたい。

○家庭との連携

子どもたちは、日常生活の中で無意識のうちに、 2 と 5 と 5 の考え方で総量を求める経験をしている。そこで 2 の段・ 5 の段から九九の構成を学んでいくが、他の段においても 3 ずつあるもの・ 4 ずつあるものを探したり、そのように自分で並べて構成したりして、乗法の用いられる場面が生活の中にたくさんあることに気づかせ、乗法のよさを生活に生かす経験もさせていきたい。家庭学習の中で九九を覚えることと合わせて、生活の中で九九を見つけたり、家庭の中で九九を探したりといった活動も取り入れていきたい。

5 本時の展開

| 本時の目標 | | 【考】既習の九九を使って全体の数を求め、説明することができる。 | |
|--------|--------------|---|---|
| 学習活動 | | 主な発問と予想される子どもの反応 | 支援と評価 |
| つかむ | 1.本時の課題をつかむ。 | <p>T：ここに切手があります。全部で何まいありますか。</p> <p>C：数えたらわかる。</p> <p>C：九九が使いそう。</p> <p>C：6の段も7の段も習っていないよ。</p> <p>T：今まで習った九九を使って考えましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;"> <p>ならった九九をつかって、答えの出し方をせつ明しよう。</p> </div> | <ul style="list-style-type: none"> 切手の絵を用意して、どの児童にも問題場面のイメージがもてるようにする。 一度に全部の切手を見せるのではなく、少しずつ見せて、既習の九九がイメージできるようにする。 |
| 見通しをもつ | 2.解決の見通しをもつ。 | <p>T：どうしたら、今まで習った九九を使うことができそうですか。</p> <p>C：上と下に分けたら、3の段や4の段がつかえる。</p> <p>C：ほかのところで分けて考えたら、2の段や5の段でもできそう。</p> <p>C：まん中で左右二つに分けたら、3の段がつかえそう。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 数えたり、たし算だけをして答えを求めるのではなく、既習の九九を使うことを確認する。 分け方はたくさんあるが、既習の九九を使って考えることを意識させるために、今回は2つに分けて考えさせる。 |
| かんがえる | 3.自力解決をする。 | <p>C：上下に2つに分ける。</p> $3 \times 6 = 18$ $4 \times 6 = 24$ $18 + 24 = 42$ <p>C：2×6と5×6に分けてもできる。</p> $2 \times 6 = 12$ $5 \times 6 = 30$ $12 + 30 = 42$ <p>C：まん中で左右2つに分ける。</p> $3 \times 7 = 21$ $3 \times 7 = 21$ $21 + 21 = 42$ | <ul style="list-style-type: none"> 作業プリントを用意し考えを記入できるようにする。 自分の考えがもちにくい児童には、友だちと相談するように声をかける。 図で確認できた児童には式と言葉で表すように声をかける。 <p>【関】既習事項を生かして、答えを見つけようとしている。</p> |
| ふかめる | 4.自分の考えを伝える。 | <p>T：答えの見つけ方をとなりの友だちに説明しましょう。</p> <p>C：同じ分け方をしていた。</p> <p>C：ちがうところで分けていた。</p> <p>C：どんな分け方をしても答えは同じになった。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 言葉での説明が難しいときには、図や式を見せながら伝えるように声をかける。 ペアでお互いに考えを伝えさせる。 <p>【表】自分の考えを図や式、言葉で相手に伝えることができる。</p> |
| | 5.話し合う。 | <p>T：考えを発表しましょう。</p> <p>T：それぞれの考え方で、似ているところ</p> | <ul style="list-style-type: none"> 発表にあわせて、黒板に図を示し、分け方が図でもわかるようにする。 |

| | | |
|--|---|---|
| <p>まとめ</p> | <p>はどこでしょう。 C: 分けてから九九をつかっている。 C: かけざんのこたえをたしている。</p> <p>T: みんなで、せつ明の仕方をたしかめましょう。</p> <p>T: ひとつの式でいうと、この切手の数を求める式はどうなりますか。 C: 6×7 になる。 C: 向きをかえたら 7×6 にもなる。</p> <p>T: わかったことをまとめましょう。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 分け方が見つからない場合には、黒板に図のみ示し、式や説明をみんなで考えていく。 どの方法も、切手の数を分けて、既習の九九を使って計算していることに気づかせる。 <p>【考】 乗数を分解しながら、多様な解決方法を考えることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> これから学習する九九にも興味をもたせる。 今まで学習したことが次に生きていくことを確認する。 |
| <p>ならっていないけい算も、ならった九九をつかって答えを出すことができる。</p> | | |
| <p>つかう</p> | <p>6. 練習問題を する。</p> <p>T: シールの数をもとめましょう。</p> | |
| <p>ふりかえる</p> | <p>7. 自己評価を する。</p> <p>T: 今日の学習でわかったことや感想を書きましょう。</p> | |

6 板書計画

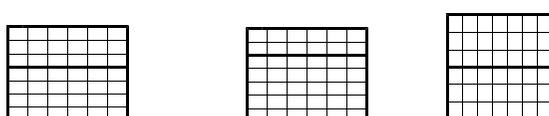
10/21 ならった九九をつかって、答えの出し方ををせつ明しよう。

きつては、ぜんぶで何まいでしょうか。

きつての絵

2つに分けたら、できそう。

3のだんや、4のだんがつかえそう。



$3 \times 6 = 18$
 $4 \times 6 = 24$
 $18 + 24 = 42$

$2 \times 6 = 12$
 $5 \times 6 = 30$
 $12 + 30 = 42$

$3 \times 7 = 21$
 $3 \times 7 = 21$
 $21 + 21 = 42$

ならっていないけい算も、ならった九九をつかって答えを出すことができる。

